（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和６年度 学校自己評価システムシート（県立和光南特別支援学校） w45

目指す学校像	児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指して、地域社会とともに成長する学校

重点目標	１　個別最適な学びと協働的な学びの充実 ２　地域社会と連携・協働した学校づくり ３　健康で安全安心な学校づくり ４　１２年間を見通したキャリア教育の充実

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日　現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ・科学的、法的根拠に基づく指導・支援を進めている。 ・主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業改善に取り組んでいる。 【課題】 ・個別最適な学びと協働的な学びの理解促進と一体的充実 ・育成を目指す資質・能力の３つの柱を踏まえた指導計画の作成と授業改善	① 科学的、法的根拠に基づく指導・支援 ② 学校教育目標の実現と授業力向上を目指すカリキュラム・マネジメント	①-1 適切な実態把握や教育的ニーズ、学習指導要領や保護者の願い等を十分に踏まえた指導を行う。 ①-2 学習者の実態や教育効果を踏まえ、ICT機器を有効に活用する。 ②-1 学習指導要領を踏まえ、年間指導計画、単元計画、学習指導案及び個別の指導計画が相互に連鎖した指導及び学習評価を行う。 ②-2 授業研究や研修会を実施し、特別支援学校教員としての専門性を高める。	①-1 科学的、法的根拠のある指導と授業改善に取り組むことができたか。 ①-2 ICT機器を日常的に活用し、指導のねらいを達成することができたか。 ②-1 学習指導要領を踏まえ、組織的、体系的に指導と評価の一体化に取り組むことができたか。 ②-2 授業研究や研修会を計画的に実施することができたか。				
2	【現状】 ・巡回相談や教育相談等を行い、効果的にセンター的機能を発揮している。 ・学校ホームページ等により、積極的に情報を発信している。 ・昨年度、新たにコミュニティ・スクールとして始動した。 【課題】 ・保護者や地域関係機関等への適切な情報提供のあり方 ・コミュニティ・スクールの機能を活かした教育活動	① センター的機能の発揮継続 ② 保護者や地域社会への効果的な情報提供 ③ 学校運営協議会の活性化と多様な取組推進	①地域社会のニーズに応じて組織的、機能的な巡回相談や指導助言等を行う。 ②-1 学校の様子やセンター的機能の取組等をホームページ等で積極的に情報発信する。 ②-2 学校公開日等を設定し、地域関係者が参観できる機会を増やす。 ③ 学校運営協議会の構成や内容を見直し、地域社会との協働的な活動を質的・量的に拡大する。	① 市教育委員会や地域関係機関と連携して、巡回相談や指導助言等を行うことができたか。 ②-1 学校の様子や取組を定期的に保護者や地域に情報発信することができたか。 ②-2 地域関係者が参観できる機会を増やすことができたか。 ③ 学校運営協議会の在り方を見直し、社会に開かれた教育課程の実現と学校課題の解決や改善に向けた連携を強化することができたか。				
3	【現状】 ・県の通知やガイドライン等を踏まえ安全安心な教育活動を進めている。 【課題】 ・日常の学校生活における環境整備と安全確保の徹底 ・不祥事根絶と業務負担軽減	① 安全教育や防災教育、保健指導や感染症対策等の工夫 ② 安全安心なスクールバス運行と自転車利用 ③ 不祥事根絶と実効性のある業務負担軽減	① 研修会の実施や各種マニュアルの共有により、全教職員で危機管理について共通理解を図る。 ②-1 委託バス会社と連携し、降車確認等の確認・点検作業を着実に遂行する。 ②-2 交通ルールの指導を徹底し、自転車用ヘルメットの着用を推奨する。 ③-1 不祥事根絶のためのミニ研修を定期的に実施する。 ③-2 校務のICT化・ペーパーレス化を進めることで事務時間を短縮する。	① 研修会や訓練、ヒヤリハット報告を実施し、危機管理に関する共通理解を深めることができたか。 ②-1 スクールバスの利用において、重大な事故は発生しなかったか。 ②-2 自転車利用の生徒へのヘルメット着用を推奨し、利用率は向上したか。 ③-1 不祥事事故発生０件を実現できたか。 ③-2 校務のICT化等により時間外在校等の平均４５時間以内達成に向けて前進することができたか。				
4	【現状】 ・継続的な研修や保護者説明会の実施、外部機関との緊密な連携等により、充実した進路指導を展開している。 【課題】 ・12年間を見通した系統的・計画的なキャリア教育の整備 ・地域関係機関との連携による進路指導の充実	① 12年間を見通したキャリア教育の構築及び進路指導、職業教育の充実 ② キャリア教育の視点に基づいた進路指導、生活指導に関する情報発信及び情報共有の充実	① 学部・分掌間で議論され体系化されたキャリア教育をまとめ、視覚化・具体化する。 ②-1 卒業後の進路や生活を見据えて、進路指導に関する校内外への情報発信と情報共有を充実させる。 ②-2 生徒のニーズに応じた就労や利用に結びつくよう積極的な開拓を継続する。	① 12年間を見通したキャリア教育の在り方を構築し、成果物として視覚化・具体化することができたか。 ②-1 キャリア教育及び進路指導に関する情報発信や情報共有は拡充されたか。 ②-2 生徒の実態やニーズに応じた卒業後の進路を決定することができたか。				